校長先生の初恋物語

第32話　動物をあやつるアマーラさん

4時間授業で、他の学年よりも下校が早かった１年生は、城山の上で遊んでいたら、イノシシがまよいこんできて、おりることができなくなっていました。そんな１年生を、きんに君は助けようとしたらしいのですが、イノシシがあまりにもきょうぼうで、はく力があって、きんに君もいっしょににげたということらしいです。

アマーラさんは、そんな１年生ときんに君を助けるために、外にとびだしていったのです。にょろひげ先生が外に出てきたアマーラさんに、「あぶないから教室にもどりなさい。」と注意したのに、アマーラさんは城山にずんずん近づいていきました。

イノシシは、アマーラさんに気がつきました。すると、アマーラさんに向かって、突進していきました。「あぶない。」ベランダから見ていた５年２組のみんながさけびました。「にげろ。」にょろひげ先生もさけびました。その時です。アマーラさんが、叫んだんです。

「ガブーーーーーーーっ。」

すると、校舎の裏側の「かんな広場」の方から、

「アウーーーーーーーーーッ。」

と、ガブの声がしました。イノシシはその声にひるんで、アマーラさんに向かってとっしんする足を止めました。

そのちょくごです。かんな広場から猛スピードで、ガブがやってきました。ガブは、アマーラさんのことが大好きで、下校が近づくと、いつもかんな広場で、アマーラさんを待っているんです。そのガブをアマーラさんが呼んだんです。

「アウアウアウアウアウアウアウーー。」

ガブはアマーラさんの前に出ると、イノシシに向かって吠え続けていました。

「アウアウアウアウアウアウアウーー。」

イノシシはガブの迫力に負けて、また城山の方に向かっていきました。でも、だめです。そっちには、かわいい１年生と、かわいくないきんに君がいる方です。

ガブはあわてて、イノシシを追っかけていきました。そして、ガブは、今度は、城山の方に回り込んで、１年生ときんに君を守るような行動を取りました。

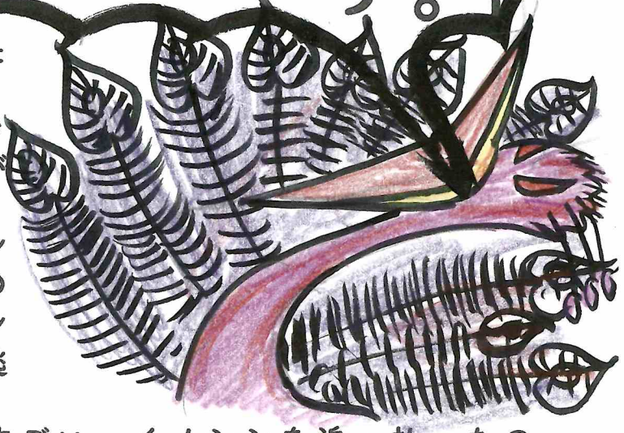
「アウアウアウアウアウアウアウーー。」

ガブの声で、イノシシは完全にパニック状態でした。目つきが変わっていました。イノシシは、ガブの迫力にまけて、飼育小屋にねらいをかえて、飼育小屋に向かって突っ込んでいきました。すると。アマーラさんが、指笛を吹きました。

「ピーーーーーーッ。」

その指笛を聞いて、あの生き物が、甲高く、めちゃくちゃでっかい声で鳴いたんです。

「ウアーーーーーーーっ。」



３階のベランダにいたとっくんたちも、みんな耳をふさぐほどの、でっかい鳴き声でした。その鳴き声は、クジャクです。クジャクが本気で出した鳴き声です。

一番びっくりしたのは、イノシシです。ガブの迫力とクジャクのとんでもない鳴き声に、イノシシはついにかんねんして、山へと逃げ帰っていきました。

すごいぞアマーラさん。本当にすごい。イノシシを追っ払ったのは、ガブと、きょうぼうなクジャクと、そしてアマーラさん。それなのに、このイノシシ事件は、思ってもいなかった悲しいできごとにつながっていくのです。　　つづく

次回予告

さらばガブ　さらばアマーラさん